

発症の経過を追うことができた成人クループの一症例

多根総合病院 内科¹, 耳鼻咽喉科²藤原 奨¹ 角南 貴司子² 濱 典男¹

要 旨

症例は81歳女性。2014年9月某日より咳嗽を自覚。呼吸困難感、嘔声が徐々に増悪し2014年9月某日に救急外来を受診した。Vital sign, 血液検査, 画像所見上も異常は認められなかったため、処方帰宅となった。しかし、呼吸困難悪化し、翌日の午前4時に再び救急外来受診、頸部X線にて気道の軽度狭窄が認められた。その際、耳鼻科の受診を勧められたため、同日の午前、耳鼻科外来を受診した。頸部X線を再度施行したところ、気道の狭窄の悪化を認めた。また、喉頭内視鏡を実施したところ、声門下浮腫を指摘され、気道閉鎖の危険性があったため同日緊急入院となった。入院後は喉頭内視鏡で確認しながらステロイドの治療で軽快、気道確保はせず退院となった。このように成人に発症から声門下浮腫が認められるまでの経過をX線、喉頭内視鏡で追うことができた例は稀であり、若干の文献的考察を含めて報告する。

Key words : 声門下浮腫 ; 成人クループ

はじめに

「クループ症候群」はウイルス感染によって引き起こされる声門下の粘膜浮腫病変を認める急性期呼吸器疾患である。小児科領域では広く認識されている病態であるが、気道の発達した成人に発症することは非常に稀とされている。今回、我々は発症から気道狭窄に至る過程をX線で確認することができた稀な一例を経験したので若干の文献的考察を含めて報告する。

症 例

患 者 : 81歳女性

主 訴 : 咽頭痛 咳嗽

既往歴 : 甲状腺機能低下症

現病歴 : 2014年9月某日の夜19時頃から咽頭痛と咳嗽を自覚。嚥下時の疼痛はなかったが、呼吸困難感が出現したため、同日夜に救急外来を受診された。初診時所見では、Vital sign, 血液検査, 胸部単純X線には異常が認められなかったため、処方帰宅となった。しかし翌日の午前4時に呼吸困難感が増悪し再び救急外来受診となった。SPO₂の低下は認められなかったが、

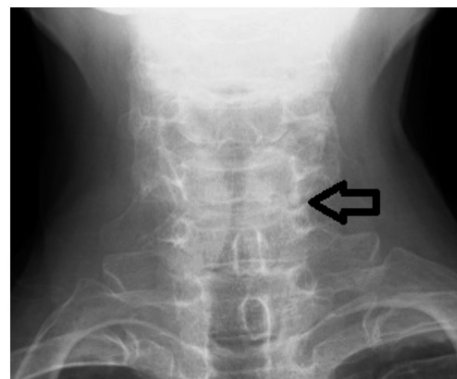


図1 救急外来受診時頸部正面X線

頸部X線を撮影したところ(図1)、気道の軽度狭窄を認めたため、午前中の耳鼻科外来受診を指示され帰宅となった。同日午前耳鼻科外来受診したところ、呼吸困難、嘔声を認め、身体所見上、肋間の陥没呼吸と吸気時の軽度狭窄音を認めた。頸部X線にて声門下狭窄の悪化を認め(図2)、喉頭内視鏡施行すると、声門下浮腫(図3)を認めたため、気道閉塞の危険性があると考え、緊急入院となった。入院後、バタメタゾ

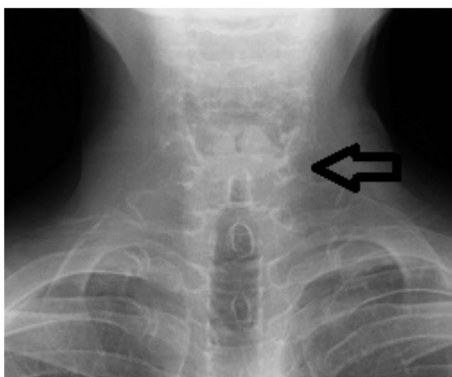


図2 耳鼻科外来受診時頸部正面 X 線



図4 ステロイド点滴開始3時間後



図3 初回喉頭鏡（声門下浮腫を認める）



図5 翌日

ンリン酸エステルナトリウム注射液4mg, CTM1g / day, ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム250mg の投与投与開始。ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム250mg 点滴後, 3時間は声門下浮腫の改善を認めなかったが(図4)6時間後に喉頭鏡にて声門を確認したところ声門下の浮腫は軽度改善し, 発声状態も改善したため気道確保は行わず, 経過観察となった。その後, 頻呼吸, 吸気性喘鳴を認めず, 気道狭窄を示す所見はなかった(図5)。また喉頭内視鏡においても声門下の腫脹は改善, 窒息の可能性は減少したため, 入院後3日間ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液4mgの使用を継続後, 喉頭内視鏡にて声門下の浮腫の消失を確認(図6)し, 入院後5日目に軽快退院となった。

考 察

クループは主にウイルス感染により引き起こされる呼吸器疾患であり, 小児領域で広く認識されている。

表1において簡潔に小児, 成人を比較した。クループの原因ウイルスとして小児ではパラインフルエンザウイルスのほか, RSウイルス, インフルエンザウイルスなどが報告されている¹⁻³⁾。気道の発達とともに成人に発症することは稀とされているが, 成人における原因

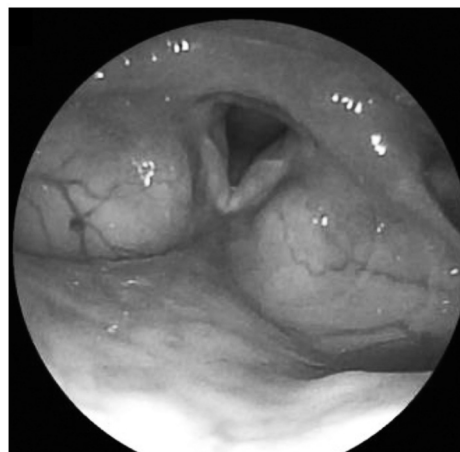


図6 退院前日

表1 クループの小児成人比較

	小児	成人
症状	<ul style="list-style-type: none"> ・先行する感冒症状 ・犬吠様咳嗽 ・吸気性喘鳴 ・嘔声 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行する感冒症状 ・犬吠様咳嗽 ・吸気性喘鳴 ・嘔声
Steeple sign の確率	26% ³⁾	100% ⁴⁻¹²⁾
治療	<ul style="list-style-type: none"> ・アドレナリン吸入 ・ステロイド点滴 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドレナリン吸入 ・ステロイド点滴 ・気道確保

ウイルスとして報告されているのは、パラインフルエンザウイルス、インフルエンザウイルスのみである⁴⁻¹²⁾。小児クループは比較的頻度の高い疾患であり、罹患率は全小児の1.8から3%と報告されている¹⁾。小児クループの臨床所見としては、先行する感冒様症状、犬吠様咳嗽、吸気性喘鳴、嘔声などの特徴的な所見から診断は比較的容易とされているが、頸部 X 線正面像での診断率 (steeple sign を認める確率) は26%程度と報告されている³⁾。治療として、第一選択はアドレナリンの吸入とステロイドの全身投与で、多くは保存的に軽快する。成人クループの頻度は不明であるが、きわめて稀な疾患とされている。臨床症状として先行する感冒様症状、犬吠様咳嗽、吸気性喘鳴、嘔声等、小児クループと同様の症状を認めたが、呼吸困難感、咽頭痛など、より多彩な症状を呈し、成人クループとして報告されている症例はいずれも重症例であった⁴⁻¹²⁾。臨床医に十分に認識されていないこと、声門下に限局した病変であり、間接喉頭鏡、喉頭内視鏡であっても見過ごされる可能性がある。成人クループの報告例では、頸部正面 X 線にて steeple sign を報告されていた症例では全例で認めたとされている⁴⁾。成人クループは診断に苦慮する症例ではあるが、侵襲の少ない頸部 X 線撮影にて診断することが可能であることが示唆され、成人の呼吸困難を訴える症例では、積極的に施行すべきであると考えられる。成人クループは報告例が少なく、治療方針は確立されていないが、既報告例では小児と同様に、アドレナリン、ステロイドを使用し、抗菌薬も使用されていた⁴⁻¹²⁾。成人の場合は、症状が出現している場合は重篤な場合が多く、20例中10例で気道確保が施行され、うち5例は経鼻・経口気管内挿管、5例では気管切開術が施行されていた⁴⁻¹²⁾。本症例でも、ステロイド投与後に喉頭内視鏡で確認しながら、気道確保の準備を整えて保存的に治療を行った。気管切開の適応については文献により意見が分かれるが、呼吸

状態が急激に悪化しても迅速に対応できるように、嚴重な監視下に置く必要があると考えられる。外来で喉頭内視鏡を実施することは困難であるが、成人の呼吸困難を訴える症例では、頸部正面 X 線を施行し、狭窄が認められた例では、成人クループも鑑別疾患に上げ、ステロイド点滴の使用を考慮する必要があると考えられる。

結 語

非常に稀な成人クループの発症例を経験したのでここに報告する。

参 考 文 献

- 1) Denny FW, Murphy TF, Clyde WA Jr, et al.: Croup: an 11-year study in a pediatric practice. *Pediatrics*, 71: 871-876, 1983
- 2) 堀 誠: VI 呼吸器疾患2 クループ症候群. *小児臨*, 39: 3499-3502, 1986
- 3) Postma DS, Jones RO, Pillsbury HC 3rd: Severe hospitalized croup: treatment trends and prognosis. *Laryngoscope*, 94: 1170-1175, 1984.
- 4) 水島豪太, 川島慶之, 岸根有美, 他: 成人クループの3例. *耳鼻臨床*, 107: 825-832, 2014
- 5) Deeb ZE, Einhorn KH: Infections adult croup. *Laryngoscope*, 100: 455-457, 1990
- 6) Tong MC, Chu MC, Leighton SE, et al.: Adult croup. *Chest*, 109: 1659-1662, 1996
- 7) Woo PC, Young K, Tsang KW, et al.: Adult croup: a rare but more severe condition. *Respiration*, 67: 684-688, 2000
- 8) Kozielski J, Szurkowska J, Jarosz W, et al.: Adult croup - a case report. *Monaldi Arch Chest Dis*, 59: 81-83, 2003
- 9) Nakayama JM, Tokeshai J: A case report of adult croup: a new old problem. *Hawaii Med J*, 64: 246-247, 2005
- 10) 庄野敦子, 中村裕二, 岸本朋宗, 他: インフルエンザが原因と考えられた成人クループ発症例の経験. *ICUとCCU*, 29: 405-408, 2005
- 11) 長友真理子, 中島庸也, 葉山貴司, 他: インフルエンザ流行期に喉頭浮腫を呈した10症例. *日耳鼻感染症研会誌*, 24: 152-156, 2006
- 12) Beckwith SR: A case of adult croup. *Intern Emerg Med*, 3: 387-389, 2008